

Visa 調査: 支払い手段は「スムーズさ」で選ぶ時代へ

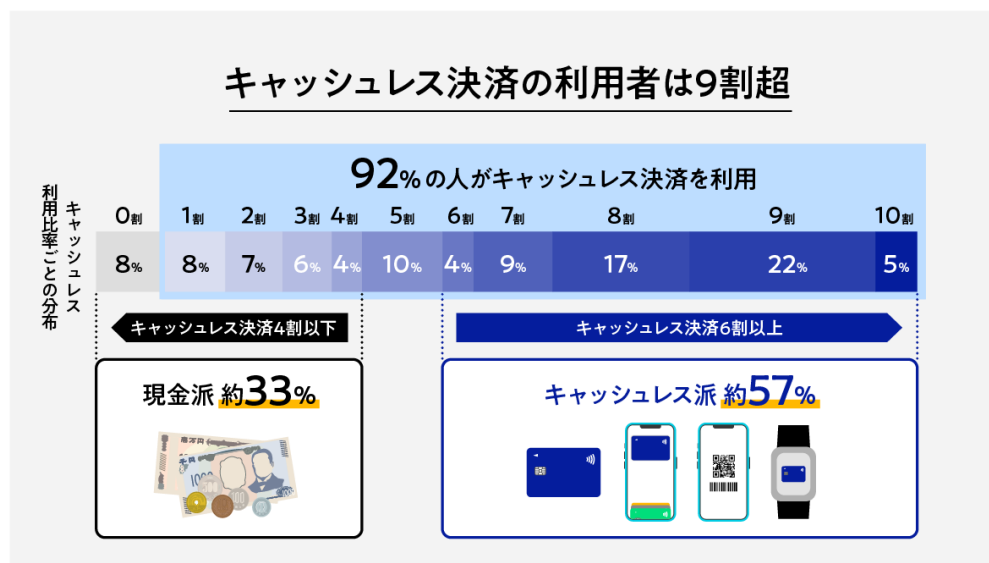
キャッシュレス決済は日常化、モバイル決済の利用と使い分けが進展

ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:シータン・キトニー、以下 Visa) は、株式会社マクロミルに委託し、対面決済におけるキャッシュレス決済およびモバイル決済の使い分けに関する調査を実施しました。本調査(全国 18~69 歳のキャッシュレス利用者*1 9,279 人)および事前調査(18~69 歳の一般消費者 30,000 人) から、キャッシュレス決済が広く浸透する中で、消費者が決済手段を選ぶ基準は「何を使う」から「どれだけスムーズに支払えるか」へと変化していることが明らかになりました。特に、モバイル決済は「スムーズさ」を背景に利用が広がり、若年層を中心に日常的に活用されるとともに、複数の決済手段をシーンに応じて使い分ける傾向も顕著に見られています。

*1 キャッシュレス利用者とはスマホを所持し、キャッシュレス決済が 6 割以上、うちモバイル決済が 3 割以上かつ月 1 回以上利用している人を指す

■キャッシュレス決済は 9 割超に定着

事前調査によると、対面での支払いにおいて、9 割以上(92%)の人がキャッシュレス決済を利用しており、現金のみで支払いを行う人は、全体の 1 割未満(8%)にとどまっています。キャッシュレス決済が半分以上を占めるキャッシュレス派が約 6 割(約 57%)を占め、キャッシュレスは多くの人の日常に定着しています。



■決済手段は「スムーズな体験」で選択

本調査からは、決済手段を選ぶ際に、「支払いの簡単さ・スムーズさ」といった決済時の体験を重視している消費者が多いことが明らかになりました。

クレジットカード／デビットカードによるモバイル決済を利用^{*2}している理由について、「レジでの支払いが簡単、スムーズで楽」(41%)が上位に挙げられました。また、「ポイント付与や還元率が高く、お得」や「財布を持ち歩かなくてもよい」、「使えるお店が多く、日常の買い物で使いやすい」といった利便性と経済的なメリットも支持されており、決済における重要な選択基準となっています。

^{*2} クレジットカード／デビットカードをモバイル端末(スマートフォンやスマートウォッチ)で利用している場合を指す。対象は、クレジットカード／デビットカードによる決済を1年以内に利用した人



■モバイル決済は拡大、若年層で高い利用

こうしたニーズを背景に、モバイル決済の利用は広がっています。事前調査では、クレジットカード／デビットカードによるモバイル決済を利用している人は4割超(43%)に拡大しています。さらに、モバイル決済を月1回以上使う人は約6割にのぼり、若年層ほど利用率が高く、男女ともに年代が上がるにつれて低下する傾向が見られました。

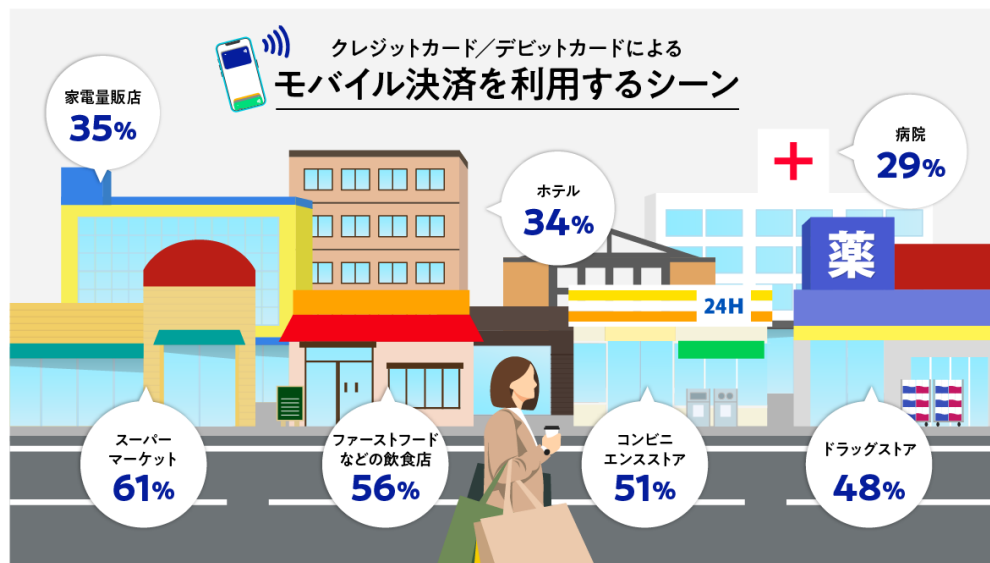


■日常の買い物シーンに広がるモバイル決済

モバイル決済は、特別な場面だけでなく日常生活の中でも広く利用されています。

クレジットカード／デビットカードによるモバイル決済を1年以内に利用した人は、スーパーマーケット(61%)やファーストフードなどの飲食店(56%)、コンビニエンスストア(51%)、ドラッグストア(48%)など、日常生活に身近な店舗での利用が上位を占めています。

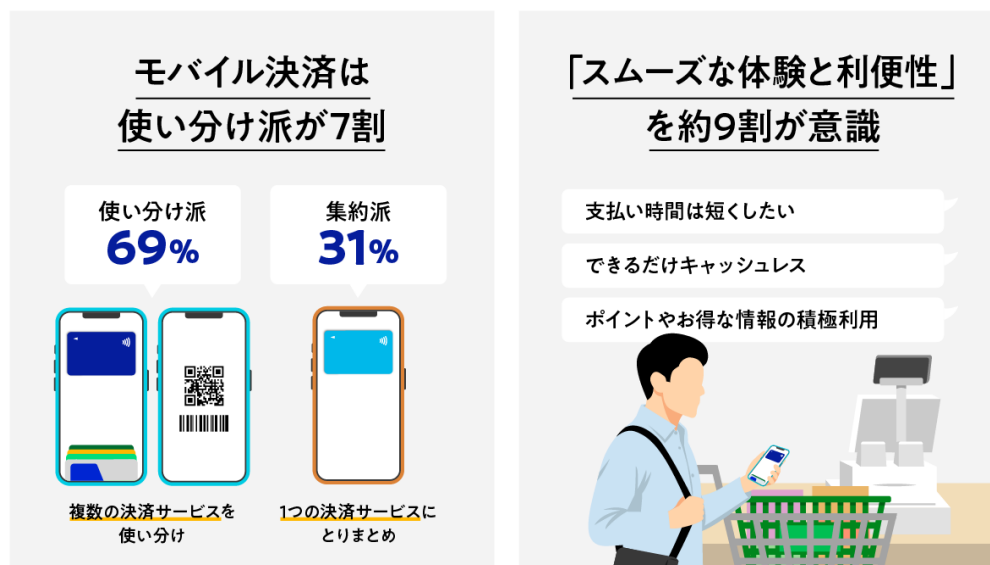
この結果から、モバイル決済は日々の買い物の中で自然に活用されていることが分かります。



■複数のモバイル決済手段を、目的やシーンに応じて「使い分ける」が主流に

モバイル決済の普及とともに、消費者は単一の手段に集約するのではなく、目的やシーンに応じて複数を使い分ける傾向が主流となっています。

本調査では、現在、複数のモバイル決済を使い分けている／使い分けたいとする「使い分け派」が約7割(69%)、「集約派」が約3割(31%)と、利用頻度が多い人ほどモバイル決済を使い分ける傾向がみられます。今後の意向については、「使い分け派」が約6割(59%)、「集約派」が約4割(41%)とやや「集約」の意向が高まる一方、「使い分け派」が引き続き主流となっています。また、約9割の人が「支払い時間」、「キャッシュレス」、「ポイントやお得な情報の積極活用」に関心を示しており、スムーズな決済体験と利便性が重視されていることがうかがえます。



Visa では、カード、モバイルといった決済形態にかかわらず、消費者が安心して、スムーズに支払いを行える環境が重要であると考えています。今後も、生活者の利用シーンや好みに応じて、誰もが使いやすい決済体験を選択できる環境づくりを支えていきます。

【調査概要】

調査方法: インターネット調査

調査対象:

事前調査: 30,000 人が対象。東京首都圏(一都三県)、大阪首都圏(大阪、兵庫、京都、奈良)、上記以外の各エリアにおいて、18~69 歳の人口動態比で各 10,000 人

本調査: 事前調査から 9,279 人を対象に実施。18~69 歳で、スマホを所持し、キャッシュレスでの支払いが 6 割以上あり、うちモバイル決済が 3 割以上。また、モバイル決済を月 1 回以上利用している人

調査時期: 2026 年 3 月

調査会社: マクロミル

###

【Visa について】

Visa は電子決済の世界的リーダーとして、世界 200 以上の国と地域における決済取引によって消費者、事業者、金融機関や政府機関をつないでいます。Visa のミッションは、最も革新的かつ利便性や信頼性が高く安全な決済ネットワークで世界を結び、個人や企業、そして経済の繁栄に貢献することです。私たちは、世界中のすべての人にとっての包括的な経済こそが、世界中の人々の生活を向上させ、経済へのアクセスが決済の未来へつながると信じています。詳しくは、[Visa.com](https://www.visa.com)(英語サイト)または www.visa.co.jp(日本語サイト)をご覧ください。